

GreenFins説明会の様子



現在の効果2020年度

- ・100事業者程度 (50ダイビング事業者) に普及啓発
- ・10店舗が導入を宣言

これからの展望

日本初のGreenFins実施地として、また、環境に優しいダイビングの拠点としてブランド化

観光客が集中している真栄田岬の様子



- ・真栄田岬の課題について関係者と合意
- ・2021年度より管理強化の実証事業を行う点も合意

オーバーツーリズム防止、環境保全を目的とした、法的拘束力のある海岸管理の強化

ローカル認証取得候補



- ・モデルコースの形成
- ・ローカル認証の検討部会の発足
- ・実施課題の整理

・様々な村内資産が観光商品化し、単価を上げること
・村内の住民の方々が観光業で商売をできるようになること

SDGsカードゲームをする村民の方々



説明会やイベントを実施し村内の住民、経営者、宿泊事業者の従業員など400名程度に説明を実施

村民一人一人が、恩納村の将来について意識をする

商品開発の授業をするうんな中学校の生徒たち



- ・うんな中学校で商品開発の実証事業を実施決定
- ・村内小学校向けの総合的な探求の時間のカリキュラムパッケージを作成

村内全ての学校でESDが実施され、恩納村に留まる、帰ってくるきっかけになる

地元ダイバー、宿泊事業者、役場での産学官連携



30社程度の企業と提携に向けた商談を実施

産学官連携で、村の暮らしの課題を解決していく

(※2) ローカル認証
特産品のうち村が定める一定の要件にあてはまったものに対して、ローカル認証を付与しブランドの向上を図る。
2020年度は作業部会で認証の方向性を検討し、2021年度は詳細のルール作りを進め、数年以内の実現を目指します。

(※3) ESD教育
地域の環境や課題、暮らしを題材に、環境、エネルギー、防災、生物多様性、気候変動、文化、国際理解などの環境、経済、社会分野の学習を深める教育。
子ども達の自律的な思考力や、課題解決能力を培うことを目的にしている

恩納村のSDGsの取組み

恩納村のSDGsは「サンゴの村宣言」を具体化し、住民生活の質向上に繋げていくための取り組みです(4000万円相当)

段階	課題	取組内容
サンゴをはじめとした海の豊かさと陸の豊かさを守る	<ul style="list-style-type: none"> ・サンゴがしばしば白化する ・観光客の海の環境への配慮が不足している 	GreenFins(※1)の導入・周知普及
産業の付加価値を上げる	<ul style="list-style-type: none"> ・観光客が多く、オーバーツーリズムが発生している ・参入障壁がなく、観光商品価値が劣化している 	真栄田岬の管理強化
	<ul style="list-style-type: none"> ・海以外の村の観光資産が注目されず、付加価値になっていない ・観光業に村民が巻き込めていない 	ローカル認証(※2)アドベンチャーツーリズム
村民生活の質の向上に繋げる	<ul style="list-style-type: none"> ・恩納村の長期的展望について主体的に考えている人が少数 	普及啓発
	<ul style="list-style-type: none"> ・若手の人口流出が多い ・若者に村の資産や取組みが十分に理解されていない 	ESD教育(※3)の推進
	<ul style="list-style-type: none"> ・村内外の組織や個人の交流が活性化していない 	サステナビリティハブ実証事業

(※1)GreenFins
国連環境計画が行っている取組み。ダイバーを中心に人々の意識を高め、サンゴ礁を保護することを通して、持続可能なダイビングやシュノーケリング、ひいては観光産業推進を目指す。東南アジアを中心に、盛り上がりを見せている。

GreenFinsのガイドライン例



珊瑚の上に立たない



海底の砂をかき回さない



海中生物を追いかけたり、触ったりしない